

1 富山県の動き

(1) 概況

本県経済をみると、個人消費は、緩やかに持ち直している。住宅建設は、持ち直しの動きがみられる。設備投資は、増加している。公共投資は、弱めの動きとなっている。生産は、持ち直しの動きが一服している。雇用情勢は、緩やかな改善の動きが続いている。企業倒産の件数は、一桁台となっている。消費者物価は、上昇している。以上のように**最近の本県の景気は、緩やかに持ち直している。**

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響のほか、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクに十分注意する必要がある。なお、感染症による影響についても注視していく必要がある。

県としては、引き続き、社会資本整備の推進、中小企業の金融対策や、デジタル化、高付加価値化に対する支援、産業振興と一体となった雇用創造、人手不足の分野における雇用型訓練等を内容とする経済・雇用対策に取り組むとともに、医薬・バイオなどの健康関連産業、環境・エネルギー関連産業、先端ものづくり産業の育成に向けたチャレンジに取り組むこととしている。

主な指標	指数等	前月（期）比	前年同月比
鉱工業生産指数（9月）	95.8	▲3.2%	▲2.7%
鉱工業在庫指数（9月）	109.9	▲2.6%	4.9%
大型小売店販売額（9月）	103億34百万円	（全店ベース）	4.5%
新設住宅着工戸数（9月）	629戸	48.3%	56.5%
消費者物価指数（10月・富山市）	103.6	0.5%	3.6%
有効求人倍率（10月・季節調整値）	1.61倍	0.02ポイント	0.18ポイント

※鉱工業生産指数・在庫指数は、平成27年＝100

※消費者物価指数は、令和3年7月分発表時より令和2年基準に改定

※有効求人倍率は、令和3年12月以前の数値を新季節指数により改定

(2) 個人消費

個人消費は、緩やかに持ち直している。大型小売店（百貨店・スーパー等）販売額をみると、8月は110億78百万円の後、9月は103億34百万円で前月比6.7%減（前年同月比4.5%増、既存店は前年同月比3.6%増）となった。また、耐久消費財の販売動向を乗用車（軽を含む。）の新車新規登録台数でみると、9月は3,238台で前年同月比29.3%増の後、10月は3,017台で同25.6%増となった。

(3) 住宅建設

住宅建設は、持ち直しの動きがみられる。新設住宅着工戸数をみると、8月は総戸数424戸（前年同月比19.7%減）の後、9月は総戸数629戸（同56.5%増）で、内訳をみると、持家は252戸（同3.3%増）、貸家は326戸（同183.5%増）、分譲住宅は50戸（同16.3%増）などとなっている。

(4) 設備投資

設備投資は、増加している。日本銀行金沢支店「北陸3県企業短期経済観測調査」(令和4年9月調査)により、2022年度設備投資計画をみると、富山県は、全産業で前年度比7.0%増となった(ソフトウェア投資額を除く)。内訳は、製造業で前年度比21.9%増、非製造業で前年度比2.5%減となった。

(5) 公共投資

公共投資は、弱めの動きとなっている。公共工事前払金保証事業統計(北海道建設業信用保証㈱、東日本建設業保証㈱、西日本建設業保証㈱調べ)で公共工事請負金額をみると、9月は109億54百万円の後、10月は73億71百万円で前年同月比4.0%増となった。また、令和4年8月ー令和4年10月期の平均額は、98億31百万円で前年同期比11.2%減となった。

(6) 生産

鉱工業生産の動きをみると、持ち直しの動きが一服している。鉱工業生産指数(平成27年=100、季節調整済)は、8月に99.0となった後、9月は前月比3.2%低下の95.8(前年同月比2.7%低下)となった。業種別に動き(前月比)をみると、13業種中、食料品工業、輸送機械工業、パルプ・紙・紙加工品工業など6業種が上昇し、化学工業、汎用・生産用・業務用機械工業、その他工業など6業種が低下となった。また、金属製品工業が横ばいとなった。鉱工業生産者製品在庫指数は、8月に112.8となった後、9月は前月比2.6%低下の109.9(前年同月比4.9%上昇)となった。業種別に動きをみると、13業種中、電気機械工業、パルプ・紙・紙加工品工業、輸送機械工業など5業種が上昇し、化学工業、窯業・土石製品工業、その他工業など8業種が低下となった。

(7) 雇用情勢

雇用情勢は、緩やかな改善の動きが続いている。月間有効求人数(パート含む)は10月に24,228人(前年同月比8.7%増)、月間有効求職者数(パート含む)は10月に14,884人(同3.2%減)となった。有効求人倍率(季節調整済)は、9月に1.59倍の後、10月は1.61倍となった。

(8) 企業倒産

企業倒産件数は、一桁台となっている。企業倒産(負債額1,000万円以上、東京商工リサーチ富山支店調)の状況をみると、9月に12件、負債総額16億14百万円(前年同月:8件増、14億75百万円増)の後、10月の件数は3件で、負債総額2億16百万円(前年同月:1件減、1億百万円増)となった。産業別では、製造業2件、サービス業他1件だった。破綻原因は、販売不振が3件だった。

(9) 物価

消費者物価は、上昇している。富山市の消費者物価指数(令和2年=100)をみると、総合指数は、9月は103.1で前月比0.2%上昇(前年同月比3.0%上昇)となった後、10月は103.6で前月比0.5%上昇(前年同月比3.6%上昇)となった。前月比で「教養娯楽」などが下落したものの、「食料」などが上昇したため、総合指数の前月比は上昇。また、生鮮食品を除く総合指数は103.4で、前月比0.5%上昇(前年同月比3.4%上昇)、生鮮食品の指数は107.7で、前月比0.8%上昇(同8.9%上昇)となっている。

企業物価は、上昇している。国内企業物価指数を見ると、9月は116.8で前月比1.0%上昇(前年同月比10.2%上昇)となった後、10月は117.5で前月比0.6%上昇(前年同月比9.1%上昇)となった。

(10) その他の動き

① 工業の動き（9月～10月）

業種別	企業ヒアリングの特徴点
一般機械	<p>自動車産業、航空機産業向けの軸受については、生産は増加、出荷は横ばいとなっている。現状、見通しともに堅調に推移している。雇用状況については、どちらかといえば足りている。材料価格は上昇し、収益性は下がっている。</p> <p>ロボット関連については、生産、出荷ともに横ばいとなっている。現状、見通しともに低調となっている。雇用状況については、どちらかといえば足りていない。材料価格は上昇し、収益性は下がっている。</p>
電子電気機械	<p>電子機器等については、生産、出荷ともに減少となっている。現状、見通しともに低調となっている。雇用状況については、どちらかといえば足りている。材料価格は上昇し、収益性は下がっている。</p> <p>半導体については、生産は増加、出荷は横ばいとなっている。現状、見通しともに堅調に推移している。雇用状況については、どちらかといえば足りていない。</p> <p>変圧器、配電盤については、生産、出荷ともに増加となっている。現状は停滞し、見通しは低調となっている。雇用状況については、不足している。材料価格は上昇し、収益性は下がっている。</p>
輸送機械	<p>生産、出荷ともに増加となっている。現状、見通しともに停滞となっている。雇用状況については、足りている。</p>
金属製品	<p>アルミニウム建材製品、住宅規格商品については、生産、出荷ともに増加となっている。現状、見通しともに低調となっている。雇用状況については、どちらかといえば足りていない。材料価格は上昇し、収益性は下がっている。</p> <p>民生用包装容器については、生産、出荷ともに横ばいとなっている。現状、見通しともに低調となっている。雇用状況については、どちらかといえば足りている。材料価格は上昇し、収益性は下がっている。</p>
非鉄金属	<p>生産、出荷ともに増加となっている。現状、見通しともに低調となっている。雇用状況については、どちらかといえば足りている。</p>
鉄鋼	<p>生産は減少、出荷は横ばいとなっている。現状、見通しともに低調となっている。雇用状況については、どちらかといえば足りていない。材料価格は上昇し、収益性は下がっている。</p>

業種別	企業ヒアリングの特徴点
化学	<p>基礎化学品、機能化学品、農業化学品については、生産は増加となっている。現状、見通しともに低調となっている。雇用状況については、どちらかといえば足りていない。材料価格は上昇し、収益性は下がっている。</p> <p>医薬品については、生産、出荷ともに減少となっている。現状、見通しともに低調となっている。雇用状況については、不足している。材料価格は上昇し、収益性は下がっている。</p>
紙・パルプ 印刷紙器	<p>生産、出荷ともに横ばいとなっている。現状は低調、見通しは停滞となっている。雇用状況については、どちらかといえば足りていない。材料価格は上昇し、収益性は下がっている。</p>
木材・木製品	<p>需要については、国産材、北洋材ともに減少となっている。供給については、国産材は保合、北洋材は増加となっている。価格については、国産材、北洋材ともに保合となっている。見通しは、国産材、北洋材ともに低迷となっている。</p>
プラスチック	<p>車両関連については、生産、出荷ともに増加となっている。現状、見通しともに低調となっている。雇用状況については、どちらかといえば足りている。材料価格は上昇し、収益性は下がっている。</p> <p>家庭用品、園芸用品、工業製品については、生産、出荷ともに横ばいとなっている。現状、見通しともに停滞となっている。雇用状況については、どちらかといえば足りている。材料価格は上昇し、収益性は下がっている。</p>
情報サービス	<p>生産、受注ともに横ばいとなっている。現状、見通しともに堅調に推移している。雇用状況については、どちらかといえば不足している。</p>
繊維	<p>生産、出荷ともに横ばいとなっている。現状、見通しともに低調となっている。材料価格は上昇し、収益性は下がっている。</p>

② 労働市場（富山労働局職業安定課調）

10月の富山県の雇用情勢をみると、新規求人数（パート含む。）は9,204人で、前年同月比11.7%増となった。主要産業別では、製造業（15.1%）、情報通信業（18.6%）、卸売業、小売業（39.3%）、不動産業、物品賃貸業（65.2%）、生活関連サービス業、娯楽業（46.7%）、サービス業（20.6%）等で増加し、建設業（▲6.4%）、宿泊業、飲食サービス業（▲13.1%）で減少した。労働力需給の趨勢を有効求人倍率（季節調整値）でみると、10月は1.61倍となり、前月比で0.02ポイント上昇となり、前年同月比で0.18ポイント上昇となった。

③ 近年の企業立地動向

区 分	29年度	30年度	元年度	2 年度	3 年度
雇用創出数	571人	517人	424人	321人	356人
企業立地件数	58件	70件	72件	60件	60件

※県独自集計

・主要企業用地の分譲状況

富山新港臨海工業用地 426.8ha（うち分譲済 413.4ha、分譲率 97%）

・最近の主な立地企業（令和2年7月以降、増設を含む）

企 業 名		業 種	竣 工 操業開始 年 月
日本ゼオン株式会社（統合生産センター）	高岡市	合成ゴム・電子材料製造	4年10月
株式会社KMC（新本社・工場）	高岡市	金型製造	4年9月
NSK富山株式会社（高岡工場 新棟）	高岡市	産業機械用軸受製造	4年9月
タカノギケン株式会社（新工場）	富山市	電子部品製造	4年7月
富士製薬工業株式会社（第7製剤棟）	富山市	医薬品製造	4年7月
富士製薬工業株式会社（第6製剤棟）	富山市	医薬品製造	4年6月
株式会社山口技研（新工場）	入善町	精密加工	4年6月
ダイト株式会社（第七原薬棟）	富山市	医薬品製造	4年5月
鹿島興亜電工株式会社（富山工場）	砺波市	電子部品製造	4年5月
エヌアイシ・オートテック株式会社（立山第3工場）	立山町	産業用アルミフレーム製造	4年4月
富山小林製薬株式会社（漢方棟）	富山市	医薬品製造	4年3月
立山化学株式会社（立山化学本部工場）	富山市	電子部品・電子機器製造	4年1月
新新薬品工業株式会社（総合管理センター）	富山市	医薬品製造	4年1月
ダイト(株)（品質保証棟）	富山市	医薬品製造	3年12月
リードケミカル(株)（リサーチセンター）	富山市	医薬品製造	3年11月
コマツ（新シールリング工場）	氷見市	建設機械製造	3年11月
コンチネンタル(株)（立山工場）	立山町	板金加工	3年10月
ケーズメタル(株)（新社屋・工場）	高岡市	薄型板金加工	3年9月
バルチラジャパン(株)（富山工場）	富山市	船舶用機器製造	3年9月
(株)スギノマシン（新工場・微粒テストセンター）	滑川市	産業機械製造	3年5月
(株)シルバートレーディング	富山市	印刷業	3年4月
前田薬品工業(株)（立山工場）	立山町	医薬品製造	3年3月
日本通運(株)（富山医薬品センター）	富山市	運送業	3年1月
昭北ラミネート工業(株)（第3工場）	富山市	印刷関連業	2年10月
東亜合成(株)（高岡創造ラボ）	高岡市	接着剤製造	2年10月
(株)北越（入善工場）	入善町	板金製造加工	2年10月
戸出化成(株)	高岡市	プラスチック部品製造	2年9月
(株)D-Factory	朝日町	省力化機械製造	2年9月
NSK富山(株)（高岡工場）	高岡市	産業機械用軸受製造	2年7月

2 全国の動き

内閣府の月例経済報告をご参照ください。

内閣府ホームページ：<https://www5.cao.go.jp/keizai3/getsurei/getsurei-index.html>